

河川事業の再評価説明資料

〔信濃川総合水系環境整備事業〕

個別事業の完了箇所評価

令和4年11月

北陸地方整備局

目 次

I. 現行事業計画及び事業評価について	P	1
II. 個別事業の完了箇所評価		
・ 長沼・小布施地区水辺整備事業		
1. 事業概要	P	2
(1) 事業概要	P	2
(2) 事業計画	P	3
2. 事業の効果の発現状況	P	4
(1) 事業の投資効果	P	4
(2) 費用対効果分析	P	5
3. 事業実施による環境の変化	P	6
4. 社会経済情勢の変化	P	6
5. 今後の事後評価の必要性	P	7
6. 改善措置の必要性	P	7
7. 同種事業の計画・調査のあり方や 事業評価手法の見直しの必要性	P	7
8. 対応方針（原案）	P	7

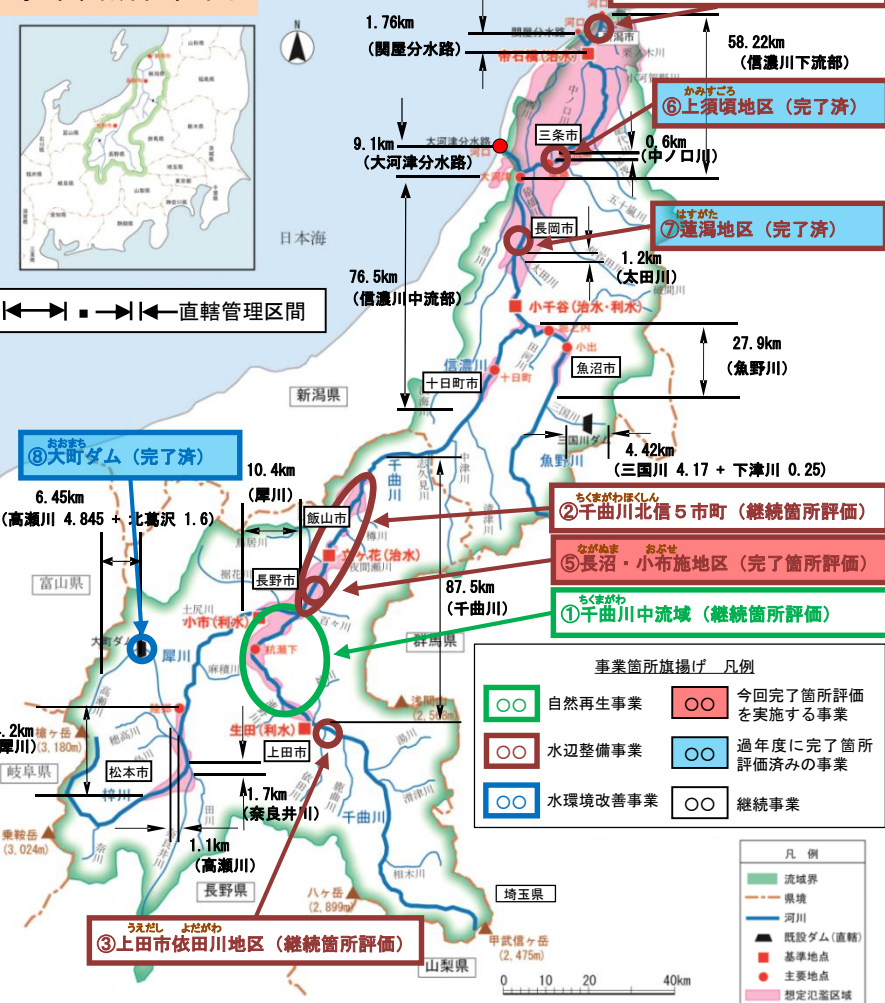
※別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕

I . 現行事業計画及び事業評価について

I. 現行事業計画及び事業評価について

- ・信濃川総合水系環境整備事業では、現在、**8箇所**の個別事業が事業計画に位置づけられ、これまでに**3事業で完了箇所評価**までを終え、**5事業が現在実施中**となっている。
- ・このうち、過年度の事業再評価において完了箇所評価が完了している3箇所の個別事業に加え、今回新たに1箇所の個別事業の完了箇所評価を実施して、**計4箇所の個別事業について**、「総合水系環境整備事業の事業評価の運用について(令和3年12月24日 一部変更)」に基づき、**水系の事業計画から除外**する。

事業箇所位置図



水系における個別事業一覧

個別事業	該当部会	箇所毎評価種別	審議(説明)内容
①千曲川中流域自然再生事業	上流	継続箇所評価	事業計画(事業箇所・事業費・事業期間)の変更
②千曲川北信5市町水辺整備事業	上流	継続箇所評価	事業計画(事業費)の変更
③上田市依田川地区水辺整備事業	上流	継続箇所評価	事業継続
④やすらぎ堤水辺整備事業	下流	継続箇所評価	事業継続〔整備完了しモニタリング中〕 今回完了箇所評価
⑤長沼・小布施地区水辺整備事業	上流	完了箇所評価	個別事業の完了
⑥上須頃地区水辺整備事業	下流	完了箇所評価済(H28)	(説明) 水系の事業計画書からの除外※
⑦蓮濁地区水辺整備事業	中流	完了箇所評価済(H28)	(説明) 水系の事業計画書からの除外※
⑧大町ダム水環境改善事業	上流	完了箇所評価済(H28)	(説明) 水系の事業計画書からの除外※

完了箇所評価済

※『総合水系環境整備事業の事業評価の運用について(令和3年12月24日 一部変更)』の記載

2. 事業評価に係る運用 (2) 評価対象

- ・新たな整備予定箇所や変更箇所が生じた場合は、事業計画を見直して評価する。また、必要に応じ河川整備計画の見直しを行う。
- ・なお、事業計画の変更により**当該事業計画外の整備内容で個別完了箇所評価を実施した箇所については計上しないものとする。**

Ⅱ．個別事業の完了箇所評価

- ・ ながぬま おぶせ 長沼・小布施地区水辺整備事業

1. 事業概要

ながぬま おぶせ 長沼・小布施地区水辺整備事業 [完了箇所]

(1) 事業概要

- ・千曲川左岸に位置する長沼・小布施地区において、**住民の新しい憩いの場及び良好な景観の創出を目的**として、水辺整備事業を行った。(写真1-1、図1-1)
- ・平成21年度に認定された「長沼・小布施地区かわまちづくり」計画を支援する事業であり、長野市と連携して、**平成28年4月、桜づつみや遊歩道等の整備が完成**し、地域住民の新しい憩いの場及び健康増進の場を創出した。(写真1-2)



写真1-1 桜づつみ整備範囲

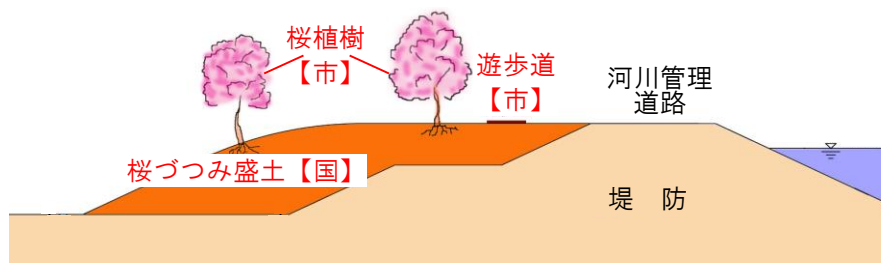


図1-1 事業断面図



写真1-2 桜づつみの整備前後の状況

1. 事業概要

(2) 事業計画

ながぬま おぶせ

- ・長沼・小布施地区の桜づつみは、地域住民の新しい憩いの場及び良好な景観創出、また、健康増進の場としての利活用を目的として、平成28年度(2016年度)に完成し、その後は、事業の効果を確認するためのモニタリングを実施してきた。
- ・しかし、令和元年出水による堤防決壊で整備箇所の一部が消失し、その後の堤防強化のために、桜づつみが一時撤去されることとなったが、別途災害復旧事業等によって桜づつみが復旧されることとなった。
- ・このため、令和元年出水前までの整備後の利用状況により、今回、完了箇所評価を実施する。

項目	事業計画	
	当初の計画(平成21年度評価)	今回評価時(完了箇所評価)
目的	地域住民の新しい憩いの場及び良好な景観創出、健康増進の場としての利活用を目的として整備する。	
事業期間	全体：平成14年度(2002年度)～平成26年度(2014年度) 【環境整備事業(国土交通省)】： 平成14年度(2002年度)～平成25年度(2013年度)整備実施 【関連事業(自治体)】： 平成14年度(2002年度)～平成26年度(2014年度)	全体：平成14年度(2002年度)～令和元年度(2019年度) 【環境整備事業(国土交通省)】： 平成14年度(2002年度)～平成25年度(2013年度)整備実施 平成29年度(2017年度)～令和元年度(2019年度)整備実施 後のモニタリング 【関連事業(自治体)】： 平成14年度(2002年度)～平成28年度(2016年度)
総事業費	全体：約18.4億円 【環境整備事業(国土交通省)】：約12億円 【関連事業(自治体)】：約6.4億円	全体：約20.5億円 【環境整備事業(国土交通省)】：約13.5億円 【関連事業(自治体)】：約7.0億円
整備内容	【環境整備事業(国土交通省)】：桜づつみ整備(盛土) 【関連事業(自治体)】：用地買収、桜づつみ整備(植樹、遊歩道、河川管理道路他)	

2. 事業の効果の発現状況

(1) 事業の投資効果

- ・整備された桜づつみでは、お花見や散策、ウォーキング、サイクリングなどが行われており、健康増進や憩いの場として活用され、利用者数も増加した。また、市民と共同で河川空間の親しみやすさ、利用のしやすさ等についてアンケート調査を実施する「川の通信簿」では、5点満点のうち4点の高評価となった。(図2-1,2、写真2-1)
- ・桜植樹は地域の方々の手によって行われ、整備後の樹木の管理や下草刈り、清掃等は地域住民により実施されており、これにより桜づつみへの愛着が深まり、地域住民の憩いの場・交流の場となっていた。(写真2-2)
- ・桜づつみは「ながの百景」に選ばれるなど、良好な景観が創出された。(写真2-3)

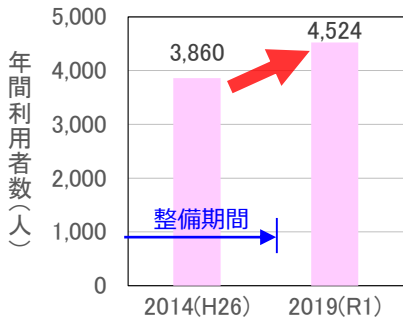


図2-1 当該区間の推計利用者数の推移
(出典:河川空間利用実態調査結果)



桜の下でお花見



遊歩道でのサイクリング

写真2-1 整備後の利用状況

箇所名	総合的な成績	キャッチフレーズ
飯山水辺プラザ	★★★★☆ 3	千曲川をまるごと体感 水遊びの拠点
千曲川リバーサイドパーク	★★★★☆ 4	桜と菜の花が咲く憩いの場
長沼桜づつみ	★★★★☆ 4	りんごと桜並木の遊歩道
犀川第二緑地	★★★★☆ 4	運動好き集合 流域最大のスポーツ公園
千曲市水辺の楽校	★★★★☆ 3	川の自然とふれあう水辺の公園
明科水辺の楽校	★★★★☆ 3	白鳥が舞う野鳥の楽園

■ 当該区へのコメント

【特に良い点】

- ・景色がきれいで、静か
- ・ランニング用の舗装がひざにいい
- ・散歩に気持ちいい
- ・歩きやすい歩道が整備されている

【総合コメント】

- ・広々とした空間が広がっており、桜並木やりんご畑、山々の景色を楽しむことができます。
- ・歩道が整備されており、散策、ランニング、サイクリングを安心して楽しむことができます。
- ・トイレが整備されると、よりよい空間となるでしょう。

図2-2 令和元年「川の通信簿」における評価結果
(出典:河川空間利用実態調査結果)



写真2-2 住民による樹木管理



「ながの百景」に選ばれた『桜づつみと西厳寺』

写真2-3 景観の向上

2. 事業の効果の発現状況

(2) 費用対効果分析

・便益の評価方法は、手引き※に基づいて、事業の特性や既往実績を踏まえて「CVM(仮想的市場評価法)」を適用している。

※ 「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(平成31年3月)」

CVM(仮想的市場評価法)による費用対効果分析

事業区分	地区	便益範囲	世帯数	評価手法	回収数/配布数	有効回答数	支払意思額
水辺整備	長沼・小布施地区	事業箇所から半径10km圏内(千曲川左岸)	49,183	CVM (平成30年11月にアンケート実施)	537票/1,500票	355票	340円/月/世帯

[CVM]

CVMによる費用対効果分析では、便益のおよぶ範囲を対象に行ったアンケート調査を基に、対価として支払っても良い金額(WTP:支払意思額)を求め、WTPと調査範囲内の世帯数との積により便益を算出する。

・総便益(B)は54.6億円、総費用(C)は40.9億円、費用便益比(B/C)は1.3となる。

投資効果一覧表

事業区分	事業費※1	主な事業内容	便益(B)※2	費用(C)※2	費用便益比(B/C)
水辺整備	19.6億円	桜づつみ盛土、植樹、遊歩道、河川管理道路	54.6億円	40.9億円	1.3

※1 支払意思額を求めた関連事業及び他事業を含む

※2 現在価値化した金額、費用には維持管理費含む

注:費用便益比(B/C)は、便益(B)・費用(C)が四捨五入されているため計算が合わない。

注:費用便益分析における事業費は、消費税を除外しており、費用対効果分析実施判定票、各事業概要内の事業費と異なる。

注:本事業評価は環境整備事業の評価であり、環境整備による便益を対象に分析を行うが、桜づつみ盛土は、防災備蓄資材としての機能を有するなど目的である。防災事業との費用按分を行った場合、環境整備事業の費用便益比(B/C)は、上記より大きな値となる。

3. 事業実施による環境の変化

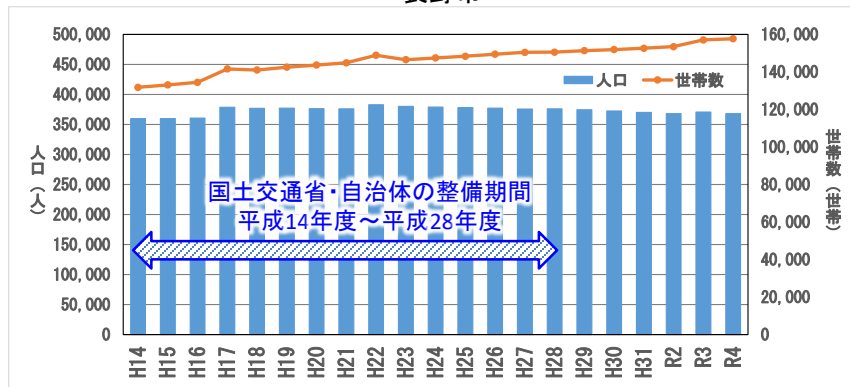
- ・整備された桜づつみでは、お花見や散策、ウォーキング、サイクリングなどが行われ、健康増進や憩いの場として活用されていた。
- ・堤防に隣接する寺院とあわせ「ながの百景」に選ばれるなど、地域の良い景観形成にもつながっている。
- ・令和元年の出水により整備箇所の一部が消失したが、災害復旧事業によって堤防の復旧・強化が進み、今後別途事業により桜づつみが復旧され、出水前と同様に地域の賑わいの場としての活用が想定される。



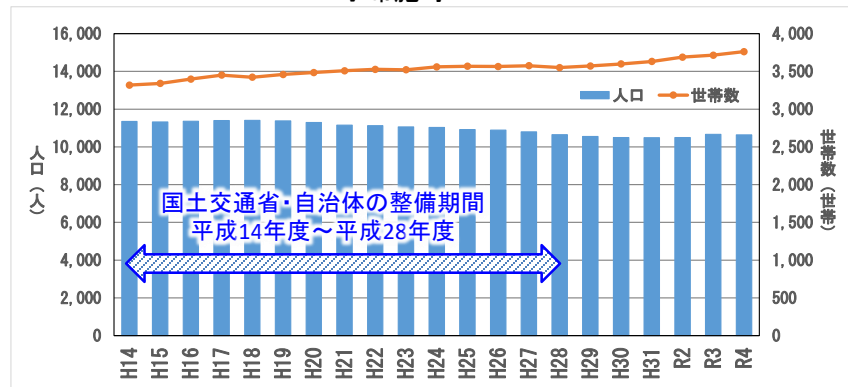
4. 社会経済情勢の変化

- ・事業実施箇所である長野市及び小布施町では、人口は整備途中から減少傾向に転じたが、世帯数は微増傾向にあり、大きな変化はない。
- ・平成27年3月、長野新幹線が長野駅から金沢駅まで延伸開業（名称が北陸新幹線に変更）し、また、当該整備箇所付近の対岸では千曲川北信5市町かわまちづくりが整備予定であることから、整備完了後は一体的な利用が期待できる。

長野市



小布施町



出典：長野県のHP（各年4月1日時点の推計人口及び世帯数）

5. 今後の事後評価の必要性

- ・整備された桜づつみでは、お花見や散策など健康増進や憩いの場として活用されていた。出水後の堤防復旧・強化に伴い撤去された桜づつみは、今後別途事業により復旧されることとなり、出水前と同様に地域の賑わいの場としての活用が想定される。
- ・費用対便益(B/C)は1.3で投資効果も確認されており、今後、改めて事後評価の必要性はないものと考えられる。

6. 改善措置の必要性

- ・別途事業により桜づつみが復旧されることとなり、復旧後は今回の事業と同様な事業効果が継続することが見込まれるため、改善措置の必要性はないと考えられる。

7. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は、現時点においてないものと考えられる。
- ・今後もCVMによる評価実績を蓄積していくとともに、効果や費用の算定も含め評価技術の向上等を踏まえつつ、必要に応じて改善を図っていく。

8. 対応方針(原案)

対応方針(原案) : 対応なし

(理由)

- ・投資効果が確認されており、今後の事業評価及び改善措置の必要性はないと判断される。